

# 日ごろの成果 東大生の発明



川に浮かぶ木杭浮島。川の規模に合わせて、大きさや数を変えることができます (写真右奥、永沼さん提供)

## 身近で役立つ



永沼 賢さん

生物がすみやすく  
川面にひっそり浮かぶ  
のは、東京大学の  
大気海

日本には、岸をコンク  
リートで固めた川が各地  
にあります。大雨のとき

## 川の環境をよくする「木杭浮島」

東京大学では学生が考え出した発明のアイデアを競う「東京  
大学学生発明コンテスト」が毎年行われています。今年には三十件  
の応募から七件が発明大賞などの賞に選ばれました。日ご  
ろの研究の成果が詰まった受賞作のうち、生活の身近なところ  
に広がるかもしれない二件の発明を紹介いたします。(松村 大行)

のはらんをおさえて防  
災に役立ちますが、流れ  
がまっすぐで急になり、  
生き物が育ちにくい環境  
です。流れをくねくねと



永沼さんが発明した「木杭浮島」  
のイメージ図 (永沼さん提供)

## 特許の勉強になる

【東京大学学生発明コンテスト】  
2003年に始まりました。発明  
のアイデアを競うとともに「ア  
イデアが生む権利を社会に主張  
する、トレーニングの機会をあ  
たえること」を大きな目的とし  
ています。日本の将来を支える  
研究者にとって、今後必要とさ  
れる能力と考えられているから  
です。

特許権などの知的財産権にくわ  
しい弁理士が審査に参加。世の  
中にある発明とどんなところが  
ちがっていて新しいのかなど、  
権利に関する質問に答えること  
が求められます。

蛇行させる改良が進んで  
いますが、小川までなか  
なか手が回りません。  
永沼さんは子どものころ  
から環境に興味があ

り、千葉真の木更津工業  
高等専門学校(高専)で  
河川工学を学んだ後に東  
大大学院に進みました。  
二〇一〇年の夏、簡学研

に変わっていきます。  
川が増水したときは、  
浮島として水面に浮上。  
魚のかくれ家となり、生

修で訪れたカナダで、湖  
に浮かぶ大きな浮島を見  
たのが発明のきっかけ。  
「こういうものがあるの  
か」と気になりました。  
その浮島に、高専の先  
輩が研究していた木杭を  
組み合わせました。木杭  
は川の流れをさえぎり、  
生き物がすみやすい環境

「発明の特許はとりま  
せん。小田学生の環境学  
習など」広く使ってほし  
いと願っています」

えた草が水を汚すリンな  
どを吸収します。  
材料は発泡スチロール  
やわらなご手に入りやす  
いのはかりです。  
いま、河川の環境がウ  
ナギにあたる影響を調  
べています。「ウナギの  
成育にもこの浮島が役立  
つかも」と考えています。

2013年 2月4日 月曜日  
(平成25年)

〒104-8433  
東京都中央区築地 5-3-2  
朝日新聞社新館 9階  
©朝日学生新聞社  
電話 03(3545)5222(記事) 03(3545)5225(広告)  
03(3545)5223(広報) 03(3545)5227(販売)